

Syllabus Id	132353
Subject Id	132004600
更新履歴	130321 新規
授業科目名	ドイツ語 I (German I)
担当教員名	大久保清美
対象クラス	M4, E4, D4
単位数	2履修単位
必修/選択	必修
開講時期	通年
授業区分	語学
授業形態	講義
実施場所	視聴覚教室、共通教室1

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

ヨーロッパ中央に位置するドイツは EU の経済の中心地であり、多くの企業はヨーロッパにおける企業活動の拠点をドイツに置いている。ドイツ語はドイツ・スイス・オーストリアの主要言語であり、それ以外のヨーロッパ諸国で中等教育において第2外国語として広く学習されている国際語である。またドイツには長く大きなヨーロッパ文明の伝統が今も日々の生活の中に生き続けており、人々は日本やアメリカとは異なった環境・慣習・生活様式・考え方で生活している。ドイツ語の学習を通じてドイツ・ヨーロッパ文化を学ぶ。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

ドイツの作家の本、ドイツ・オーストリア・スイスに関する本を読む。テレビでドイツ・ヨーロッパに関する放送を見る。NHK テレビ・ラジオのドイツ語講座で学習する。

	重み	目標	説明
学習・教育目標		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	◎	D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
D:コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力			

学習・教育目標の達成度検査	<ol style="list-style-type: none"> 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。 プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。 目標達成度試験の実施要領は別に定める。
---------------	---

授業目標

ドイツ語の基礎を学ぶ。1年後にドイツ語技能検定試験4級を取得できる程度の語学力をつけることを目標とする。ドイツの日常生活を学び、ドイツ文化・ヨーロッパ文化を知り、それとの比較において日本文化・日本人の考え方を客観的に見る見方を養う。

授業計画 (プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	オリエンテーション	授業概要・目標、評価方法と基準等の説明。ドイツ語の歴史、ドイツ及びドイツ語圏の国々	
第2回	アルファベット・発音	発音のポイント	
第3/4回	Lektion 1 : Markt	動詞の現在人称変化、人称代名詞	
第5/6回	Lektion 2 : Bier und Wein	sein と haben の現在人称変化、möchte の使い方	
第7回	Lektion 3 : Drinnen und draußen	wissen の現在人称変化	
第8回	前期中間試験		×
第9回	ドイツ歌曲	ドイツ歌曲を聴く・歌う	
第10回	Lektion 3 : Drinnen und draußen	wie+形容詞で作る疑問詞	
第11/12回	Lektion 4 : Sehenswürdigkeiten	fahren の現在人称変化、命令文	
第13/14回	Lektion 5 : In der Stadt	sprechen, geben, nehmen の現在人称変化	
第15/16回	Lektion 6 : Alte Städte	助動詞 können の現在人称変化	
	前期期末試験		×
第17回	ドイツ現代史	ナチズム、冷戦、ベルリンの壁、ドイツ再統一	

第 18/19 回	Lektion 7 : Brot	分離動詞	
第 20/21 回	Lektion 8 : Fußball	所有冠詞	
第 22/23 回	Lektion 9 : Berlin	現在完了形 (1)	
第 24 回	後期中間試験		×
第 25 回	クリスマス	「きよしこの夜」、「喜びの歌」を歌う	
第 26/27 回	Lektion 11 : Weihnachten	前置詞 (1)	
第 28/29 回	Lektion 10 : Kulturvielfalt	現在完了形 (2)	
第 30/31 回	Lektion 12 : Umwelt	前置詞 (2)	
	後期期末試験		×
第 32 回	答案返却・まとめ		

課題とオフィスアワー

成績不振者に対し、特別課題レポートを課すことがある。
オフィスアワー；火曜日 15：00～16：30

評価方法と基準

評価方法

原則として、前期中間・期末試験、後期中間・期末試験の4回の試験の平均点で評価する。ただし、学年末における学生自身による学習・教育目標達成度調査結果も評価に加えることがある。さらに、成績不振者については、フォローアップ試験、特別課題レポートを加味して評価することがある。

評価基準

原則として、前期中間試験：25%、前期期末試験：25%、後期中間試験：25%、後期期末試験：25% ただし、学生自身による学習・教育目標達成度調査結果：最大10%を加味することがある。

教科書等	ドイツ・サラダ[DVD付] (保阪良子、朝日出版社) ドイツの文化や日常生活等を紹介したビデオ等も随時、授業に投入する。
先修科目	英語
関連サイトのURL	東京ドイツ文化センター http://www.goethe.de/tokyo
授業アンケートへの対応	学生が能動的に学ぼう、テキストの「選択的読み」等を通して自学自習の時間を増やす。
備考	1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。